

新規就農者向けイチジク栽培講座

「いちじくスクール」修了式・開校式

受講生が本格就農 4月より第8期始まる



JA西三河は4月8日、新規就農者向けイチジク栽培講座「いちじくスクール」の修了式・開校式を開きます。修了生は4月よりJA西三河いちじく部会に加入し、本格的なイチジク栽培を始めます。

2015年の開校以来、2021年度までに41人が受講。うち17人が専業農家として部会へ加わり、**新規就農・規模拡大に係る作付面積は362.9ア増えました**。スクールからは30代から40代の若い世代の新規就農者を送り出しており、**産地の維持・活性化に貢献しています**。

■ 修了式・開校式 ■

【日時】4月8日(金) 10:00～

【場所】JA西三河あぐりセンター小牧2階

(西尾市吉良町小牧梶見堂35番地)

★ 修了式ではスクール生1人(7期生)へ修了証書と記念品を贈り、開校式には8期生となる5人が参加します。



修了式

修了証書の授与



開校式

苗木の植え付け実習

産地を支える「いちじくスクール」

新たなチカラ続々と！



▶8月から11月にかけては
ほぼ毎日収穫実習に取り組みます

果樹としては珍しく、苗木の植付から2年で収穫でき、3年目には成木並みの収量を得られるイチジク。また果実が軽量で作業負担が軽いことなどから、**新規就農者でも取り組みやすい作物**です。

この特長を生かして、定年帰農者を含む新規就農希望者を取り込み、産地の維持拡大につなげようとJA西三河がJAあいち経済連、県、市とともに2015年度から開始したのが、この「いちじくスクール」。**イチジク専門の新規就農者向け講座は珍しく、西尾市外から受講生が集まっています**。イチジクと組み合わせる別作物を栽培する複合経営の提案・栽培指導などを行っている点も特色です。



【お問い合わせ・ご連絡先】

JA西三河 (西三河農業協同組合)

〒445-0073 愛知県西尾市寄住町下田15 企画室企画課 広報担当: 神谷健

TEL: 0563-56-5214 担当者携帯: 070-1414-4251

HP: <http://www.ja-nishimikawa.or.jp/> Eメール: kikaku@ja-nishimikawa.com

※ このニュースリリースは、西尾市の記者室在籍報道機関あてに発出しています。
また、同内容をJA西三河ホームページの「報道機関向け資料(ニュースリリース)」ページにも掲載しています。

日本有数のイチジク産地

～時代に合わせた販売を「フィルム付き出荷」スタート～

■西三河地区は

日本一のイチジク産地！

全国で約10,500ト生産されているイチジク。愛知県は収穫量1,700トを誇る日本有数のイチジク産地です。中でも西尾市を含む西三河地区は、生産の中心地となっています。

1965年頃より、水田の転作作物としてイチジク栽培が本格化。西尾市のイチジク生産者で組織する「JA西三河いちじく部会」は、JAあいち中央・JAあいち豊田・JAあいち三河のイチジク生産部会とともに組織する「西三河いちじく部会」の一員として、全国一のブランドを確立しています。



■フィルム付き出荷START！

「JA西三河いちじく部会」では、8.7畝ものほ場でハウスイチジクと露地イチジクを生産。露地イチジクが最盛期となる8月中下旬には、1日当たり約10,000パック(1パック360個)を収穫します。

新型コロナウイルスの影響を受けて衛生面における配慮の必要性が強まったことから、2020年10月より試験的にフィルム付き出荷を開始。昨年度よりハウス・露地ともに本格的なフィルム付き出荷を開始し、安全・安心な「西三河のいちじく」ブランドの付加価値を高めて有利販売につなげています。



イチジクの選果風景
パート選果員が品質をチェック

【産地情報】

生産者部会の名称: JA西三河いちじく部会 (鈴木昇部会長) 西尾市の生産者49人で組織

栽培面積: 約8.7畝

生産量: 168ト(ハウス15ト・露地153ト、2021年度)

出荷時期: (ハウス)3月下旬～8月上旬 (露地)7月下旬～11月上旬

販売額: 1億6,300万円(露地・ハウス合計)

出荷先: 主に中京市場・京浜市場

出荷品種: 「柘井ドーフィン」「サマーレッド」

「西三河いちじく部会」を通し、4JA共販で京浜地域(60%)・中京地域(25%)・北陸地域(15%)へ出荷

全国の出荷量: 10,440ト

愛知県の収穫量: 1,690ト(全国2位)(1位和歌山県: 1,960ト、3位大阪府1,320ト)